

子どもの貧困、地続きにあるシングルマザーの貧困 ～誰もがSOSを自由に出せる社会へ～



NPO 法人
大阪子どもの貧困アクショングループ (CPAO/ しーぱお) 代表
徳丸 ゆき子さん

プロフィール

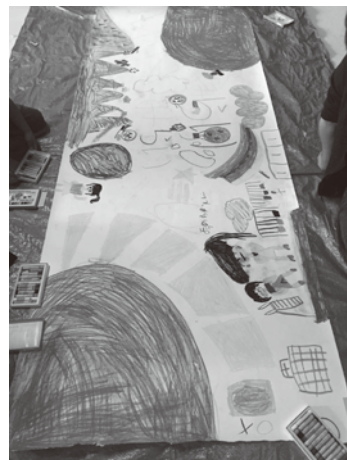
大阪市生まれ。NPO法人にて不登校、ひきこもり支援に従事した後、国際協力NGOに所属し、国内事業を担当。子どもの社会参画、子どもの貧困、東北大震災復興支援のスタッフを経て、2013年に現団体設立。

「5 人の子どもがいるシングルマザーです。みな、2 日間何も食べていません。一番下の 1 歳の子のミルクだけでも送ってもらえませんか？」 私たちのもとには毎日のように悲鳴のような SOS が届きます。

大阪市では、母子の状況を象徴する二つの事件がありました。2010 年 7 月、西区で幼児（当時 3 歳と 1 歳）が衰弱死していた事件では、風俗産業で働き、夜遊びを繰り返し、子どもを放置して死なせたとして、母親への厳しい批判が渦巻きました。もう一つは2013年5月、北区で母と子（当時28歳と3歳）の遺体が発見された事件です。「もっとおいしいものを食べさせたかった」というメモが残されていました。生活に困窮し、餓死した可能性が高いとみられています。

これらの事件を受け、子どもが巻き込まれる悲劇を繰り返したくないと子ども支援関係者が集まり、大阪子どもの貧困アクショングループ（略称 CPAO/ しーぱお）を立ち上げました。しんどい状況に置かれている方ほど、声をあげられません。声をあげられないのではなく、自己責任という冷酷な言葉で声をあげにくくしている社会があります。

どんな声掛けなら届くのか、どんな場所で情報を得ているのか当事者に教えてもらいながら、「助けてって言ってもええねんで」というカードを商店街で配るなど、ボランティアのみなさんと共に活動してきました。声をあげてくれた方には、居場所やイベントに参加してもらい、心や問題をときほぐし、民間のサポート団体や行政につないでいきます。ですが、本当に困窮されている方ほど、「自分がバカやから、アホやから、こんな人生になってん。人や社会のお世話になるわけにはいかない、様子を見てて…」とやっと声をあげてくれても、それまでのひどい経験から、つながる力を奪われてしまい、私たちが関わってからもう数年、時間だけが経ち、ジリジリとしんどい状況に追い込まれていかれる方も少なくありません。そしてそのようなご家庭には、月末になるといつもお腹を空かせ、季節やサイズの合っていない服を着て、寒い思いをしていたり、さびしい思い、時には暴力にさらされ、怖い思いをしていたりする子どもたちがいます。親が声をあげられないために、氷山の一角として虐待死や心中といった悲劇も繰り返されるのでしょうか。





もっと予防的な活動、早く声をあげてもらったり、こちらが気づいたりできる関係性をつくる必要性を感じ、「しんどい状況にある親子を地域でサポートしよう」と、現在は、週3日、一緒にごはんを食べることを中心とした居場所づくりも始めています。

私たちの活動から見えるのは、お腹を空かせている子が思っていた以上に多く、そういった子どもたちにとっては、信頼できるおとなや安心して過ごせる場所、愛情や教育や様々な機会など足りないことだらけだったりします。「ボケボケ…死ね死ね…」と繰り返し言っている小学2年生の男の子に「誰に言うてるの?」と聞くと「自分」と答えました。その子は、「俺なんてろくな人間じゃないから、おとなになる前に死ぬねん」と続けました。ひとり一人に向き合い、やりたいことに応え、「あなたは大切な人だ」ということを伝え続けています。

親自身も子どもの頃から地続き、いわゆる「負の連鎖」がみられる方も少なくありません。親が親になれない、家族が家族の体をなしていない。そんな親、家族のもとに暮らす子どもたちには、誰かがサポートするしかありません。「子どもは地域で見守ろう・社会で育てよう」、そんな耳ざわりの良い言葉だけでは子どもたちは救われません。

具体的にどうすることが地域や社会で子どもの育ちをサポートすることなのでしょう? 活動の中から、心ある人たちとつながることができ、地域のNPO関係者や様々な専門分野の大学関係者と共に、「生野子育て社会化研究会」を立ち上げました。調査・研究・実践・評価・モデルづくり・政策提言をしたいと考えています。地域や社会で子どもたちに何がどうできるのか、何が必要なのか、具体的な方法と費用、たとえば人件費・食材費・固定費がどのくらい必要なのかを明らかにし、民間ができるところ、行政が制度にしないと継続できないといったことを合わせ、提言していく予定です。

子どもは親だけ、さらに母親だけで育てることはできません。公的な役割として、先進諸国並みに税金を投入し、現金給付していくことはもちろん、最後は人が人を支えます。人員を増やし、子育て・子育てをサポートする体制を拡充するといった抜本的な対策を求めていると考えています。私たち民間は、「困った時はお互いさま。明日はわが身」と、誰もがSOSを自由に出せる社会にし、支え合うコミュニティづくり、そのための居場所づくりが求められていると思います。私たちはこれからも、子どもたちが人や社会を信じ、声を上げられる環境をつくるため活動を続けていきます。

関連セミナーのご案内(申込方法は15ページをご覧ください)

**クレオ大阪
子育て館**

日時 2月9日～23日 毎週木曜日
10:30～12:00 全3回

シングルマザー応援プロジェクト② シングルママのための仕事と子育て両立応援セミナー

「まだまだ子育てに手がかかる…」「自分と子どもの将来を考えるとお金のこと心配」「私にあった働き方ってあるのかな?」こんな悩みや不安ありませんか。お金、将来、就労などから、これからの生活設計について考えます。

対 象 シングルマザーで就労をめざす方 定 員 20名(締切後抽選)

講 師 加藤 葉子(マイライフエピー代表)、
大阪マザーズハローワーク就労支援員

締 切 日 1月30日(月)

備 考 受講動機をお書きください。協力:大阪マザーズハローワーク



3か月～
小学校3年生・無料

**クレオ大阪
西**

日時 3月18日 土曜日
14:00～16:00

地域で生きるこどもたち ～釜ヶ崎「こどもの里」の軌跡～

西成区にある「こどもの里」は、こどもたちの遊びと学びと生活の場「居場所」をこどもの生活圏内で保障しつづけて40年近くたちます。その活動は、映画「さとにきたらええやん」で取り上げられ話題を集めています。

対 象 どなたでも

定 員 40名(先着順)

講 師 荘保 共子
(NPO法人こどもの里理事長)

締 切 日 一時保育・
手話通訳
3月4日(土)

1歳～就学前
(先着5名)

